

2009年 全原協総会あいさつ

2009年5月26日

原子力委員会委員長 近藤駿介

皆様こんにちは。全国原子力発電所所在・市町村協議会・総会の開催をお祝い申し上げます。また、皆様には日頃、原子力政策の推進に対してご理解とご協力を賜っておりますこと大変にありがたく、この席をお借りして、厚くお礼を申し上げます。

さて、我が国におきましては、皆様のご協力を得まして、原子力発電所が継続的に建設・運転され、2000年前後には、我が国電力供給の約35%を担うまでに至りました。しかしながら、その後はこれが少し低下しはじめ、昨年には一昨年夏の地震の影響で多数の原子力発電所が運転を停止したことから30%を割り込んでしまい、原子力発電に対して期待されるエネルギー安定供給や地球温暖化対策に対する貢献を十分になしているとはいえない状況にあります。

そこで、関係者には、国民の期待に応える姿を実現するべく、停止しているプラントの運転再開に向けて着実に取り組むことを、さらには、国際水準の稼働率を実現するべく、といっても四国、九州地区ではこれがすでに時折は実現されてきているわけですが、全電気事業者に対して、地域社会のご理解を得て、安全を確保する合理的な取組を確実に実施していくことを求めているところでございます。

次に、高レベル放射性廃棄物地層処分施設の立地につきまして、これに係る文献調査の候補地への応募を未だいただいておりません。そこで、関係者に対して、これは青森県六ヶ所村や茨城県東海村において安全に貯蔵されている放射性廃棄物を地下の深いところに処分するものであり、これの安全な管理手段として最適なものであること、また、この処分場を立地する自

治体は、全国民に利益をもたらすわけですから、利益の衡平の観点から、文献調査を受け入れていただく段階から、全国民の利益のためにご尽力いただいているとの認識に立って、当該自治体の発展を国民全体として応援するとしていることについて十分のご理解をいただくべく、全力で取り組むようお願いしたところです。

さらに私自らも、特に、原子力施設を立地していない都府県の知事にたいして、この処分場開設の重要性についてご説明申し上げ、先方から産業廃棄物処分施設の立地の際のご苦労などを拝聴する相互理解活動に取り組んできているところでございます。

ところで、「プルサーマル」計画は、耐震安全性の見直し作業を含む諸般の事情でほぼ10年前に事業者が公表した計画通りには進捗していません。しかし、皆様のご理解を得てこのところ着実に前進する兆しが見えていますし、MOX燃料を全炉心に装荷する大間原子力発電所の建設も開始されています。青森県むつ市に立地予定の使用済燃料の中間貯蔵施設の設置許可申請に係る安全審査も、設計基準地震動の見直しに時間を要していましたが、ようやく峠を越えたと理解しております。

一方、我が国初の商業用再処理工場は、本格操業に向けての使用済燃料を用いた試験が最終段階で手間取っております。私は、当事者に対して、世界で数少ない取組を行っている誇りと責任をもって、着実に困難を克服していくことを求めているところでございますが、このことで地元の皆様をはじめ、この工場に使用済み燃料を送り出す予定の各原子力発電所所在地の皆様には多大のご心配をいただいていることについては、遺憾に存じている次第です。

さて、今後は、新規立地地点の開発と次世代を担う人材の育成環境の整備が重要であり、国はこれに対して重点投資を行うべ

きと考えています。人材育成に関しては、原子力のことを国民の常識としていく取組みは勿論、これから原子力発電を利用したいと考えている国々が必要な原子力人材を育成する取組みに我国として積極的に協力していく取組みが、我国の安全保障にもつながる重要なものと考えています。折角ですから、皆様の市町村におかれても、電気事業者と共同して、そういう教育を受けに多くの外国人がやってくるようにして、これを海外との文化交流の機会を増やすことに活用するなどの創意工夫に挑戦されることを期待するものです。

以上申し上げました課題をはじめとする諸課題の解決に、私も引き続き全力を傾けたいと考えていますので、皆様におかれましては、引き続き我国の原子力政策に対するご理解・ご協力を頂けますよう、心からお願い申し上げる次第です。

最後に、皆様の総会が成功を納めることを心から祈念して、お祝いのご挨拶とします。